

## 日本の公共図書館におけるヤングアダルトを対象としたサービスの変遷

浦上 諒子

公共図書館では、青年期の利用者であるヤングアダルトに対するサービスを「ヤングアダルトサービス (YA サービス)」と呼んでいる。2002 年から各自治体において「子どもの読書活動推進計画」が策定されてきたが、中高生の不読者率の増加という課題が残されている。YA サービスは中高生にアプローチすることで、生涯にわたる図書館利用者を養成する重要な役割を果たす。井上靖代 (2010) は、YA サービスの事例報告は多いが体系的な研究は乏しいと指摘する。本研究の目的は、これまでヤングアダルトを対象に行われてきた日本の公共図書館のサービスについて体系的に分析し、その変遷を明らかにすることである。

研究手法は文献調査と内容分析とする。文献調査の対象は日本におけるヤングアダルトを対象とした図書館サービスについて論じた文献とする。文献調査の対象期間は、日本において YA サービスに関する文献が確認された 1930 年から現在までである。分析対象とした文献は、先行研究に見られた著者による文献などから主要と考えられるものを抽出した。

内容分析の対象は、『図書館雑誌』と『みんなの図書館』の 2 誌に掲載された雑誌記事とする。内容分析の対象期間は 1977 年 8 月刊行分から 2017 年 10 月刊行分までとする。記事を収集し、記事単位で日本の公共図書館におけるヤングアダルトを対象としたサービスにコーディングを行った。付与したコードの定義はコーディングマニュアルとして記録した。

文献調査の結果、日本におけるヤングアダルトを対象としたサービスの変遷は大きく 3 つの時期に分けられた。1970 年代以前は、事例はあるものの発展している様子はない発生期である。学生の「席借り問題」および対策としての自習室設置が主流であったこの時期に、中学生向けに室内装飾や配架を工夫したコーナーを設置した 1974 年の大阪市立中央図書館の事例はヤングアダルトを対象としたサービスの先駆的な事例とされている。1980～1990 年代はサービスの認識が普及し、実践され始めた導入期である。そして 2000 年代以降は社会変化等の状況に応じて多様なサービスが行われている展開期である。ヤングアダルト参加型のプログラムなどは 2000 年代以降に見られ始めた新しいタイプのサービスである。

内容分析では計 72 件の記事が対象となり、20 個のコードが作成された。分析の結果、図書館が単独で行っているサービスで多かったのはコーナー設置と企画の実施である。特に企画では読書に関連したテーマのものが多く見られ、読書支援に重きを置いていることが明らかになった。学校との連携は 2005 年頃からよく見られるようになり、「子どもの読書活動推進計画」の成果と見ることもできる。ヤングアダルトとの協働は 2009 年頃から見られるようになったが、数は多くなく、これからの展開が期待されるサービスである。

(指導教員 小泉公乃)